

建設候補地の決定と新庁舎建設基本計画の考え方（発言要旨）

1 旧市立病院跡地を建設候補地に決定

- (1) 新庁舎の建設候補地については、市議会の「鳥取市庁舎建設に関する調査特別委員会」及び有識者等による「鳥取市庁舎整備に関する検討委員会」の2つの委員会のこれまでの検討の結果として、災害対策拠点・市民サービス拠点として多様な機能を備えた新庁舎を建設するには、旧市立病院跡地が良いと方向づけられました。こうした検討結果や市民の皆さんからいただいたご意見、さらには市議会6月定例会での論議を踏まえ、市として旧市立病院跡地を建設候補地として決定します。
- (2) 現在策定中の鳥取市新庁舎建設基本計画（新庁舎の規模や機能、概算事業費などの計画）の取りまとめに当たっては、建設候補地の決定を受けて市民ワークショップ（第1回6月29日開催予定）を6月から9月にかけて開催し、市民の皆さんの参画のもと幅広い年齢層からのご意見を基本計画に反映します。また、10月、11月にかけて、市民の皆さんへ基本計画（案）についての情報を提供し、ご意見を求めるためにパブリックコメントや地域説明会を実施します。

2 地元企業の力を結集した新庁舎づくり

- (1) 新庁舎の建設は、地域の幅広い産業の活性化や雇用の確保に大きな効果があるものと期待しています。また、公共投資が先行き減少傾向にある中で、地元の設計業者や建設業者などにとって貴重な受注の機会になり、またこれを通じて、これからの時代に必要となる新しい技術を実際に施工する大変有益な機会を提供することになります。したがって、新庁舎の設計・施工等に当たっては最大限の地元発注を行う方針とします。
- (2) 本年6月には、地元建設業界から市役所庁舎の新築移転について地元発注の要望をいただきました。市は、この事業に関して地元関係業界との意見交換の機会を設けるなど、基本計画策定の段階から積極的な地元発注に向けて必要な検討を進めます。

3 現本庁舎の跡地及びその周辺地域の総合的な活性化策

- (1) 鳥取城跡周辺地域の特色を生かした地域の活性化を図るため、本庁舎と第二庁舎の跡地利用とその周辺の総合的な活性化策について、「現本庁舎周辺地域活性化検討委員会」の議論を踏まえ、歴史、文化、芸術、居住、福祉、防災などの観点を重視するとともに、この地域の賑わいを生み出すための総合的な地域活性化の方針を今年中に取りまとめます。
- (2) 今後、中心市街地内の居住者及び事業者の意向を客観的に把握するためのアンケートまたはそれに代わる調査の実施について、検討委員会に検討いただきたいと考えています。